慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アメリカにおける日本政治・外交史研究の現状
Sub Title	American studies in Japanese politics and diplomatic history
Author	池井, 優(Ikei, Masaru)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1965
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.38, No.10 (1965. 10) ,p.77- 96
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19651015-0077

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料

アメリカにおける日本政治・外交史研究の現状

池井　優

一

第二次大戦後アメリカにおける日本研究の著しい発展に伴つて、その状況はアメリカ人の日本研究者あるいは日本人によつて度々報告が行われて来た。[1] しかしアメリカの日本研究は日進月歩の有様であり、わたくしの最近の留学報告をかねてここに更めて紹介の筆を執ることもあながち無意味なことではあるまいと思われる。アメリカの日本研究の最近の細分化に伴つて、本稿では日本近代政治史、外交史の研究を中心に述べるつもりである。また最近のアメリカにおける日本研究が日本人研究者として無視し得ないところまで進歩して居り、そのような意味においてわれわれ日本人研究者としてこれにどう対処すべきかについても私見を交えて論ずることとする。

まず現在のアメリカの日本研究がその歴史的研究発展段階においてどのような位置にあるかを把握しておく必要があろう。アメリカの日本研究の史的発展はペリー来航以前にまで遡ることも出来るが、日本政治・外交史研究がその緒に着いたのは第一次大戦終了後のことであつた。一九二五年の太平洋問題調査会の設置、一九二八年のハーヴァード大学哈仏燕京研究所の開設と、各地の大学における日本関係講座の開講はサージ・エリセイフ(Serge Elisseeff)、角田柳作 (Ryusaku Tsunoda)、ジョージ・サンソム(George Sansom)、ハロルド・ヘンダーソン(Harold Henderson)等のすぐれた教師を得て積極的に行われ、その学生達の間からロバート・K・ライシャワー(Robert K. Reischauer)、エドウィン・O・ライシャワー (Edwin O. Reischauer)、チャールズ・B・ファーズ (Charles B. Fahs)、チトシ・ヤナガ (Chitoshi Yanaga)、ジョン・W・ホール (John W. Hall)、等の後の一線級の日本研究者が生れたのであつた。

一九四一年一二月の太平洋戦争の勃発は敵国を理解するための研究者の必要を米国政府に痛感させ、まず「言語要員」の養成が行わ

れた。特にその中から学問的興味を日本に持つた大学院博士課程の学生達は、任務のため学位論文執筆を戦後まで延期し、占領終結とともに大学の研究室へ帰つた。これらの学生の中にはマリアス・ジャンセン(Marius B. Jansen)、ノブタカ・イケ(Nobutaka Ike)、ジェームス・モーリー(James W. Morley)、ハイマン・カブリン(Hymann Kublin)、ヒラリー・コンロイ(Hilary Conroy)等が居り後に頭角を現わし、今日のアメリカの日本研究を支える中核となつている。

それに加えて、日本占領期あるいは朝鮮戦争を機会に来日し、興味を覚えた日本を帰国後大学で更めて研究した人々、戦後学問の対象としての興味を日本に持ち、大学の日本関係の講座で基礎知識を得て日本留学を行う人々、目下アメリカの日本研究は以上のような厚い層の上に成立つて居り、各種機関の財政的援助と相まつて、今後ますますの発展を約束されている。

(1) 例えば金井円「米国に於ける日本史研究の新段階」日本歴史一五七号、昭和三六年、同氏「米国における日本史研究の動向」社会経済史学二八巻三号、昭和三八年、ジョン・W・ホール「アメリカ人による日本史研究」史学雑誌六一編九号、昭和二七年、ジョン・レイン「アメリカにおける日本研究の発展」日本歴史一三一号、昭和三四年、森克己「アメリカの日本史研究とその学者たち」日本歴史一一五号、昭和三二年、三宅一郎「アメリカにおける日本近代史研究の動向」人文学報一四号、昭和三五年、座談会(アボッシュ、ビーリス、シュワンテス、テリー、阿部秀夫、岡田章雄、小西四郎、宮崎ヒロシ、森克己)「外人の日本史研究」(上・下)日本歴史一〇九号、一一〇号、昭和三二年。

二

現在アメリカにおける日本研究の中心がハーヴァード、コロムビア、ミシガン等の大学にあることは周知のところであり、後に述べる学会の動向と合せて考察すれば、今日の状況がほぼ浮び上つてくると思われる。

以下各主要大学ごとに日本近代政治・外交史の研究機関と研究者をとり上げ、その現況を紹介して見たい。

ハーヴァード大学　ハーヴァード大学は中国研究と並んで日本研究にも古い伝統を持ちハーヴァード燕京研究所(Harvard-Yenching Institute)と地域研究委員会に所属する東アジア研究センター(East Asian Research Center)を中心に研究が行われている。

日本研究の中心であつたライシャワー教授が駐日大使としてハーヴァードを去つて以来、日本の近代史はクレイグ副教授(Albert M. Craig)によつて講ぜられて居り、"Chōshū in the Meiji Restoration"(1961)で好評を博して以来、同教授はフェアバンク、ライシャワー両教授と共著で"East Asia, the Modern Transformation"(1965)を発表し、またプリンストンのジャンセン教授の編になる"Changing Japanese Attitude toward Modernization"(1965)に論文 Science and Confucianism in Tokugawa Japan を寄せている。その他日本の近代化の問題はペルゼル(John Pelzel)、ベラ(R.N. Bellah)等の諸教授によつて行われている。[1] 日本関係の外交史については入江昭講師が授業も担当し、目下一九六〇年に提出した学位論文"Ameri-

can Diplomacy and Sino-Japanese Relations. 1926—1931" を書き改めて著書を出版すべく準備中であり、現在一九〇〇年代の日中米関係を三国の資料によつて研究中である。その他シュウォルツ教授(Benjamin Schwartz) は著書は中国に限定されているが、授業では日本を含めて扱つている。

コロムビア大学 コロムビアは今年ハワイで客死した東京専門学校卒業の角田柳作氏の指導等によつて戦前から日本研究は盛んであつたが、一九四八年に東アジア研究所(East Asian Institute) が設立され、故ジョージ・サンソム卿(Sir George Sansom) が所長に就任して以来急速に日本研究は進められるに至つた。

近現代史については目下東アジア研究所長を兼ねるモーリー副教授(James W. Morley) が、戦後日本の政治外交を研究中であり、"Japan's Position in Asia" (The Journal of International Politics, Vol. VII, No. 3, 1964) などの論文の他に戦後の日韓関係を扱つた "Japan and Korea: America's Allies in the Pacific" (1965) が出版された。その他水戸学に興味を持つウェッブ副教授は論文 "The Development of an Orthodox Attitude Toward the Imperial Institution in the Nineteenth Century" (前掲ジャンセン編書に収録) 等に加え日本研究者への研究手引 "Research in Japanese Sources: A Guide" (1964) を出版した。アメリカの極東政策に興味を持つボーグ博士(Dorothy Borg) はアメリカ側の公文書、個人の記録、新聞等を入念に当つて六七〇余ページにわたる "United States and the Far Eastern Crisis of 1933—1938" (1964) の出版を見た。パッシン教授(Herbert Passin) は専門の社会学の立場から日本の近代化にも興味を持ち最近 Modernization and the Japanese Intellectual: Some Comparative Observations (前掲ジャンセン編書所収) を発表し、また広範な知識、史料を駆使して日本関係の著書を執筆中である。文学から政治まで手広い研究で知られるモリス教授(Ivan Morris) は昨年 "Japan, 1931—1941—Militarism, Fascism, Japanism?" (1964) を出版した。

プリンストン大学 プリンストンはジャンセン教授(Marius B. Jansen) が明治維新史、明治期における日本の対中国観等の研究を続け、日本近代化に関する会議提出の報告を集めて自ら編者となつて "Changing Japanese Attitudes Toward Modernization" (1965) をまとめた。

ミシガン大学 戦後いち早く日本研究所(Michigan Center for Japanese Studies) を創設し、岡山にその分室を設ける等、日本研究に独自の道を開拓したミシガン大学は研究の中心となつていたジョン・ホール教授がイェール大学に移つて後もハケット教授(Roger F. Hackett)、ウォード教授(Robert Ward) をはじめとして多くのスタッフを擁している。ハケット教授は "The Meiji Leaders and Modernization: the Case of Yamagata Aritomo" (ジャンセン編書所収) 等の論文を発表し、ウォード教授は "Political Modernization in Japan and Turkey" (1963) 以降も積極的に日本の近代化過程の他国との比較を行つている。

イェール大学 ミシガンからジョン・ホール教授を迎えて以来、

イェールの日本研究も徐々に整備されつつある。ホール教授は最近"Changing Conceptions of the Modernization of Japan"（1965）（ジャンセン編書所収）を発表した。日本軍閥を研究中のクローリ助教授（James B. Crowley）は目下一九六〇年にミンガン大学に提出した学位論文"Japan's China Policy, 1931—1938: A Study of the Role of the Military in the Determination of Foreign Policy"を書き改めて著書として出版すべく準備中である。ヤナガ教授（Chitoshi Yanaga）も古くからの日本研究者として健在である。

ワシントン大学　西海岸の諸大学中東洋研究に最も力を注いでいるシアトルのワシントン大学は、極東ロシア研究所（Far Eastern and Russian Institute）を中心に研究が行われている。マキ教授（John M. Maki）は"Court and Constitution in Japan"（1964）を発行して以来引続き憲法調査会について研究を進めて居る。中国、フィリピンが専門のテイラー教授（George Taylor）はマイケル教授（Franz H. Michael）との共著で極東関係の標準的なテキストとされる"The Far East in the Modern World"（1956）に中ソ論争を加えて改定版を出版した。日本の終戦の研究で学位を取り、東条と日米開戦の研究で地位を確立したビュートー副教授（Robert J. C. Butow）は目下『木戸日記』を翻訳中であり、日米開戦時の日米交渉を引続き研究中である。

その他西海岸では、カルフォルニア大学（バークレー）ではスカラピーノ教授（Robert A. Scalapino）が中心となつて、日本をはじめアジア各国の共産主義運動の研究が行われ、ジョンソン助教授も専門の中国の他にゾルゲ事件を扱った著書を出版した。スタンフォード大学はフーヴァー図書館の充実した図書、資料という恵まれた環境の下に、日本史三巻（History of Japan）（1964）を書き了えてサンソム教授は死去したとはいえ、御前会議等を中心に日本の政策決定を研究中のイケ教授（Nobutaka Ike）、日本の地方行政に興味を持つスタイナー副教授（Kurt Steiner）によつて研究の火は受けつがれている。その他西海岸ではオレゴン大学にはダル教授（Paul Dull）、幣原外交を分析中のファルコネリー講師（Ralf Falconeri）が居り、ロスアンジェルス郊外の南カリフォルニア大学には日露協商の研究で学位を取り、目下現代中国研究の詳細な手引きを作成中のバートン副教授（Peter Berton）、日本の左翼運動研究中のタットン副教授（George Tutton）がいる。海を越えてホノルルのハワイ大学には日露戦争の外交"The Diplomacy of the Russo-Japanese War"（1964）を出版したホワイト教授（John A. White）、明治憲法の成立過程に興味を持ち著書を準備中のアキタ副教授（George Akita）等が頑張つている。

（1）日本の近代化については、正田健一郎「アメリカにおける日本近代化の研究動向」早稲田政治経済雑誌一二三巻一号、昭和三九年、に詳しい。

三

次に学会活動について紹介しよう。多くの日本研究者が加入している学会として「アジア学会」（The Association for Asian Studies）

がある。アジア学会の前身は一九四八年に創設された「極東学会」(Far Eastern Association) であつたが、一九五六年インド、東南アジアの研究者にまで門戸を開放し、アジア学会と改称し、機関誌 Far Eastern Quarterly も The Journal of Asian Studies と名を改めた。学会の主な活動は機関誌（前掲誌と Newsletter of the Association for Asian Studies）の発行、毎年一年全米的な規模で行われる年次大会の開催、各地区毎に開催される地域的集会の後援等である。本学会は海外を含めて三〇〇〇人以上の会員を有し、年次大会は、日本、中国、東南アジアその他テーマ別の小分科会に分れて報告と活潑な討論が行われる。一九六四年三月ワシントンで行われた第六回大会と六五年四月サンフランシスコで行われた第七回大会の日本関係の報告テーマと討論参加者を次に紹介してみよう。

第十六回大会　　於ワシントンD・C

JAPANESE ELITE FORMATION IN THE MEIJI PERIOD

Chairman; Robert Smith, Cornell University

Social Values and Leadership in Late Tokugawa Thought

Harry Harootunian, University of Rochester

The Upper Civil Service in the Meiji Period

Bernard Silberman, University of Arizona

Meiji Military Elite

James Crowley, Yale University

Discussant: *Robert Smith, Cornell University*

その他ハーバード大学のボートン学長が座長をつとめた「徳川期における大名統治の諸様相」(Varieties of Daimyo Rule in Tokugawa Japan) を主題とする報告、「アジアのインテリ」(Asian Intellectual) の中のコロムビア大学ベッシン教授の「日本のインテリ」(Japanese Intellectual) が目をひく。

第十七回大会　　於サンフランシスコ

POLITICAL CHANGE IN EARLY TWENTIETH CENTURY JAPAN

Chairman: Robert A. Scalapino, University of California, Berkeley

1903: Itō's Failure as a Party Leader

George Akita, University of Hawaii

The Growth of Party Power in Late Meiji and Early Taishō (1905-1915)

Tetsuo Najita, Carleton College

Party Rivalry in Taishō Japan

Peter Duus, Washington University, St. Louis

The Shinjinkai and Leftist Politics in the 1920's

Henry Smith, Harvard University

Discussant: *Robert A. Scalapino, University of California, Berkeley*

JAPAN'S RELATIONS WITH HER ASIAN NEIGHBORS

Chairman: Peter A. Berton, University of Southern California

Japan and Communist China

Donald Hellmann, Swarthmore College

Japan and Taiwan

Douglas Mendel, Jr., University of Wisconsin—Milwaukee

Japan and the Two Koreas

Chong-sik Lee, University of Pennsylvania

Japan and Southeast Asia

Russell H. Fifield, Univesity of Michigan

Discussant: *Chün-tu Hsüeh, State University of New York at Plattsburgh*

その他の報告では「アジア・アフリカ関係」(Asian-African Relations) の報告の中でテキサス大学のソウカップ助教授 (James R. Soukup) の「日本・アフリカ関係」(Japanese-African Relations) が発表され、「アジアにおけるアジア研究」の日本の項を受持って京都大学岩村忍教授が報告を行った。

その他「アメリカ歴史学会」(American Historical Association) の年次大会における日本関係の報告を示せば次のようである。一九六三年一二月の七八回大会と翌六四年一二月の七九回大会の例を示そう。

Joint Session with The American Military Institute

JAPAN AND AMERICA: CONCEPTS OF NATIONAL DEFENSE

Chairman: James W. Morley, Columbia University

Military Views on National Defense in Prewar Japan

James B. Crowley, Yale University

Changing Concepts of National Defense in the United States

Stetson Conn, Department of the Army

Comment

Marius B. Jansen, Princeton University

William Fox, Columbia University

FAR EASTERN DIPLOMACY

Chairman: Maurice Matloff, Department of the Army

The Korean Policies of Li Hung-chang, 1871-1885

K. C. Liu, University of California, Davis.

China, the Bethlehem Steel Company, and the United States Navy, 1909-1922

Willam R. Braisted, University of Texas

Soldiers Become Diplomats: The Military Role in the Korean Truce Negotiations

Walter Hermes, Departments of the Army

Comment

Theodore Ropp, Duke University

CURRENCY POLICY AND INTERNATIONAL RELATIONS

Chairman: Karl Bopp, President, Federal Reserve Bank of Philadelphia

United States Examples: Cleveland, 1893-1897, and FDR,

1933-1937

Jeannette P. Nichols, University of Pennsylvania

Japanese Examples: Matsukata, 1897, and Hamaguchi, 1930

Arthur E. Tiedemann, City College of New York

Comment

Irwin Unger, University of California, Davis

Hugh Patrick, Yale University

七九回年次大会（一九六四年一二月二八日—三十日）

American Expansion

United States Expansion in the Far East before the Open Door

Thomas McCormick, University of Pittsburgh

The Occupation of Japan

Preparation for the Occupation

Hugh Borton, Haverford College

Making the Japanese Constitution: A Harder look

Justin Williams, University of Maryland

四

次に学会誌について紹介して見よう。近代日本政治・外交史研究に関する学術論文を扱った学会誌中最初にとりあげるべきはアジア学会発行の The Journal of Asian Studies（以下 JAS と略す）であろう。季刊で前述のアジア学会会員の手に成る論文、書評より成り、時として問題となる書物が出版された場合など、批評論文（Review Article）として二、三頁を割いての詳細なものが載せられることもある。年四回の季刊の他に年一回別冊として前年刊行のアジア関係の単行本、雑誌論文の目録が刊行されるが、アジア研究者にとつて大いに利用価値があろう。日本、韓国、中国、東南アジア、インドの政治、外交、経済、文学、法律の論文が主としてアメリカ、時に英、中、日などの学者の寄稿によつて掲載され、時に特集の形で特定テーマが扱われる。掲載される論文は編集主任（現在はテュークー大学クライン教授）の下に提出され、筆者の名を秘して関係分野の二名以上の研究者に回覧され、忌憚のない批評と共に筆者に送り返され、筆者の訂正、加筆を俟つて掲載に到る。最近五年間の近代日本政治、外交史関係の論文は次のようである。

The Journal of Asian Studies

Herschel Webb, What is the Dai Nihon Shi? Vol. XIX: No. 2, Feb. 1960

W. G. Beasley, Feudal Revenue in Japan at the time of the Meiji Restoration, Vol. XIX: No. 3, May 1960

Harry D. Harootunian, The Economic Rehabilitation of the Samurai in the Early Meiji Period, Vol. XIX, No. 4, August 1960

Akira Iriye, Chang Hsüeh-liang and the Japanese, Vol. XX, No. 1, November 1960

Ian H. Nish, Japan's Indesicion During the Boxer Disturbances, Vol. XX, No. 4, August 1961

Jackson H. Bailey, Prince Saionji and the Popular Rights Movement of the 1880's, Vol. XXI, No. 1, Nov. 1961

Richard T. Chang, The Failure of the Katsura-Harriman Agreement. Vol. XXI, No. 1, Nov. 1961

George Akita, The Meiji Constitution in Practice: The First Diet, Vol. XXII, No. 1, Nov. 1962

Sidney Devere Brown, Ōkubo Toshimichi: His Political and Economic Policies in Early Meiji Japan. Vol. XXI, No. 2, Feb. 1962

James B. Crowley, Japanese Army Factionalism in the 1930's, Vol. XXI, No. 3, May 1962

James B. Crowley, A reconsideration of the Marco Polo Bridge Incident, Vol. XXII, No. 3, May 1963

Chang Han-Yu and Ramon H. Myers, Japanese Colonial Development Policy in Taiwan, 1895-1906, Vol. XXII. No. 4, August 1963

George Totten, Hilary Conroy, Lee Soon-Won, Don Thurston, Japanese Imperialism and Aggression: Reconsiderations I,

Conroy, The Japanese Seizure of Korea: 1869-1910

Dong, Can Aggression Be Justified and Imperialism Rationalized by "Realism"? Vol. XXII, No. 4, August 1963

Akira Iriye, Japanese Imperialism and Aggression: Reconsiderations II, Taiheiyō sensō e no michi: Kaisen gaikō shi, Vol. XX VIII, No. 1, Nov. 1963

Donald Keene, Japanese Writers and the Great East Asia War, Vol. XXIII, No. 2, Feb. 1964

Shunzō Sakamaki, Ryukyu and Southeast Asia, Vol. XXIII, No. 3, May 1964

Kōzō Kamamura, Zaibatsu, Prewar and Zaibatsu, Postwar, Vol. XXIII, No. 4 August 1964

Kwanha Yim, Yüan Shih-k'ai and the Japanese, Vol. XXIV, No. 1, Nov. 1964

Robert E. Ward, The Commission on the Constitution and Prospects for Constitutional Change in Japan, Vol. XXIV, No. 3, May 1965

JAS と並んでアメリカ歴史学会の機関誌 American Historical Review も見逃し得ない。年四回刊行の季刊誌であり、歴史学全般、世界各地域を扱っている。極東、日本関係も多くはないが、時折掲載される。

American Historical Review

Robert J. C. Butow, The Hull-Nomura Conversations: a Fundamental Misconceptions, Vol. LXV, No. 4, July 1960

Fred Greene, The Military View of American National Policy, 1904-1940. Vol. LXVI, No. 2. Jan. 1961

Sadao Asada, Japan's "Special Interests" and the Washington Conference, 1921-22. Vol. LXVII, No. 1, Oct. 1961

Pacific Historical Review はアメリカ歴史学会太平洋沿岸支部(The Pacific Coast Branch of the American Historical Association)によつて編集されている季刊誌でカルフォルニア大学(バークレー)のレヴィンソン教授(Joseph R. Levenson)等が編集者となつて、カルフォルニア大学出版部から刊行されている。

Pacific Historical Review

Riley Sunderland, The Secret Embargo, Vol. XXIX, No. 1, Feb. 1960

Edward N. Barnhart, The Individual Exclusion of Japanese Americans in World war II, Vol. XXIX, No. 2, May 1960

Gerald E. Wheeler, Isolated Japan: Anglo-American Diplomatic Co-operation, 1927-1936, Vol. XXX, No. 2, May 1961

Ralf Eldin Minger, Taft's Missions to Japan: A Study in Personal Diplomacy Vol. XXX, No. 3, August 1961

Donald C. Gordon, Roosevelt's "Smart Yankee Trick," Vol. XXX, No. 4, Nov. 1961

Edward N. Barnhart, Japanese Interness from Peru, Vol. XXXI, No. 2, May 1962

J. Chal Vinson, The Imperial Conference of 1921 and the Anglo-Japanese Alliance, Vol. XXXI, No. 3 August 1962

Barnard Sternsher, The Stimson Doctorine: F.D.R. Versus Moley and Tugwell, Vol. XXXI, No. 3, August 1962

Barbara Teters, The Genro In and the National Essence Movement. Vol. XXXI, No. 4, Nov. 1962.

C.I. Eugene Kim, A Problem in Japan's Control of The Press in Korea, 1906-1909, Vol. XXXI, No. 4, Nov. 1962

Clark G. Reynolds, Submarine Attacks on the Pacific Coast, 1964, Vol. XXXIII, No. 2, May 1964

John H. Boyle, The Drought-Walsh Mission to Japan, Vol. XXXIV, No. 2, May 1965

Asian Survey はカルフォルニア大学(バークレー)の国際問題研究所(Institute of International Affairs)から発行されている月刊誌である。毎号アジアの現状紹介の論文が掲載され、編集主任は現在スカラピーノ教授である。一九六一年一月の創刊であるので、一九六一年から六五年七月までのものについて、論文のタイトルと筆者を紹介する。

Asian Survey

Douglas H, Mendel, Jr., Behind the 1960 Japanese Diet Election, Vol. I, No. 1, March 1961

Irene B. Taeuber, Manpower Utilization and Demographic Transition, Vol I, No. 3, May 1961

Atsushi Oi, Rearment and Japan: Thoughts on a familiar Bogey, Vol. I, No. 7, Sept. 1961

R.P. Dore, The Japanese Socialist Party and "Structural Reform". Vol. I, No. 8, Oct. 1961

David W. Plath, Will Success Spoil the Japanese? Vol. I, No.

9, Nov. 1961

Robert J. Lifton, Peason, Rearment, and Peace: Japan's Struggles with a Universal Dilemma Vol. I, No. II, Jan. 1962

Takeshi Ishida, Popular Attitudes Toward the Japanese Emperor, Vol. II, No. 1, March 1962

Donald C. Hellmann, Basic Problems of Japanese South Korean Relations, Vol. II, No. 3, May 1962

Nobushige Ukai, "The Japanese House of Councillors Election of July 1962, Vol. II, No..6, August 1962

Chalmers A. Johnson, "Low Posture" Politics in Japan, Vol. III, No. 1, Jan. 1963

Felix Moos, Religion and Politics in Japan: The Case of the Sōka Gakkai, Vol. III, No. 3, March 1963

Hans H. Baerwald, Tensions in Japanese Politics: Coal and Korea, Vol. III, No. 4, April 1963

Hugh T. Patrick, Japanese Influences on the United States; Balance of Payments, Vol. III, No. 5, May 1963

Junnosuke Masumi, A Profile of the Japanese Conservative Party. Vol. III. No. 8, August 1963

Frank C. Langdon, The Political Contributions of Big Business in Japan, Vol. III, No. 10, Oct. 1963

Hans. H. Baerwald, Japan at Election Time, Vol. IV, No. 1, Jan. 1964

Kiwon Chung, Japanese-North Korean Relations Today, Vol. IV, No. 4, April 1964

George O. Totten and Tamio Kawakami, Gensuikyō and the Peace Movement in Japan, Vol. IV, No. 5, May 1964

Douglas H. Mendel, Jr., Japan's Taiwan Tangle, Vol. IV, No. 10, Oct. 1964

Donald C. Hellmann, Japan's Relations with Communist China, Vol. IV, No. 10, Oct. 1964

Hans H. Baerwald, Japan: The Politics of Transition, Vol. V, No. 1. Jan. 1965

Masaaki Takane, Economic Growth and the "End of Ideology" in Japan, Vol, V, No. 6, June 1965

James R. Soukup, Japanese-African Relation Problems and Prospects, Vol. V, No. 7, July 1965

Journal of International Affairs はコロムビア大学の国際問題研究所 (the School of International Affairs) から年二回刊行されている今日の国際問題を扱った雑誌である。毎号特集の形で発行される。現在編集主任はクリーマン教授 (Aaron S. Klieman) である。最近五年間で日本関係を扱った号は一九六三年の一七巻二号 "The Asian Triangle: China, India, and Japan" があり、次のような論文が掲載された。

Journal of International Affairs

James W. Morley Japan's Position in Asia, Vol. XVII, No. 2,

1963

Allen B. Cole. Political Contrasts: China, India, and Japan, Vol. XVII. No. 2, 1963

Hugh Patrick and Peter Schran, Economic Contrasts China, India, and Japan, Vol. XVII, No. 2, 1963

Russell H. Fified. Southeast Asia in the Asian Triangle, Vol. XVII, No. 2, 1963

Pacific Affairs はアメリカではなくカナダのブリティシュ・コロムビア大学によつて編集されている太平洋アジア問題に関する季刊誌である。しかし論文、書評の寄稿者は殆んどアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアの大学の米、英人であるところから、ここに紹介する。現在の編集主任はブリティシュ・コロムビア大のホランド教授（William L. Holland）である。

Pacific Affairs

Charles D. Sheldon, Religion in Politics in Japan: The Sōka Gakkai, Vol. 33, No. 4, Dec. 1960

James W. Morley, Japan's Image of the Soviet Union, 1952-61, Vol. 35, No. 1, Spring 1962

Chong-Sik Lee, Japanese-Korean Relations in Perspective, Vol. 35, No. 4, Winter 1962-63

Hans H. Baerwald, Parliament and Parliamentarians in Japan, Vol. 37, No. 3, Fall 1964

Political Science Quarterly は Political Science Association の機関誌で、季刊、ミシガン大学政治学研究所の発行で、現在編集主任はミシガン大学ミラー教授（James Miller）である。

Political Science Quarterly

Alfred C. Oppler, The Sunakawa Case: Its Legal and Political Implications, Vol. LXXVI No. 2, June 1961

Theodore McNelly, The Renunciation of War in the Japanese Constitution, Vol. LXXVII No. 3, Sept. 1962

五

さて、以上見て来たようにアメリカの日本研究は日本人研究者として無視し得ない段階に達していることが知られるが、しからば日本人研究者として逆にその成果をいかに取入れるべきであろうか。

第一は研究者の書いた単行本の利用である。単行本は輸入書籍商、各大学図書館、研究室等を通じて新刊書のニュースもキャッチ出来、入手も比較的容易であるから問題はなかろう。

第二に考えるべきは雑誌論文の利用であろう。日本の政治、外交を扱った論文が掲載される雑誌は相当数あり、その大半が日本の主要図書館に輸入されているにもかゝわらずその利用度は案外高くないものと思われる。特定の学会誌については、一九六〇年以降についてのみ前章に紹介したが、第二次戦後は勿論戦前においても多くの優れた論文が見られる。アメリカにおいても日本関係の雑誌論文を集め分類した目録はわずかであり、いずれ改めて紹介の筆を執りたいと考えているが前記の諸雑誌等について関係論文がないか、

特に日米関係については一応戦前にまで遡つて当ることが望ましい。

第三になすべきはアメリカ側の原資料の利用である。既にアメリカ人日本研究者が日本外交文書、大日本維新史料等の活字になつたのに止まらず、外務省文書、国立国会図書館憲政資料室文書、更には地方図書館に赴いての史料追求を行つている現在、日本の特に外交史研究者にその動きが多く見られないのは残念である。米国議会図書館の日本関係資料、国立文書館の日中関係資料等が日本にマイクロフィルムで移入されると共に、研究者の渡米も今後ますます活潑になるところから、各地に保存されているプライベート・ペイパーを見る機会を持つこともさほど困難ではないと思われる。(1) 一例を挙げれば、イェール大学のスチムソン文書(Henry L. Stimson Papers)、ニューヨークのF・D・ルーズヴェルト図書館のルーズヴェルト文書(Franklin D. Roosevelt Papers)、ハーヴァード大学図書館のグルー文書 (Joseph C. Grew Papers) 等は Foreign Relations of the United States 等の公文書からは得られない日米外交史上の貴重な鍵を握る資料を秘めている。文書の所在は Philip A. Hamer. A Guide to Archives and Manuscripts in the United States, 1961 で知ることが出来るが、各文書についての詳細な目録は未だ出来ていないようである。(2)

この他に日本人研究者として心して参考すべきは、毎年大量に生み出される博士号取得のため提出される学位論文であろう。日本関係をテーマとして毎年各地の大学に提出される学位論文は一九四六年から六三年まで四〇〇を越えている。ごく一部のものは本の形をとつて出版されるが、日本、しかもそれが特殊なテーマの場合はいかに秀れた論文であつても需要を考慮して出版に至らない場合が多い。幸い最近 Journal of Asian Studies. News Letter Vol. X, No. 2, Dec. 1964 が未だ本の形をとつて出版されていない日本関係の学位論文のリストを発表した。編者の分類には若干の疑問があるので政治・外交の分野に限つてわたくしが再分類し、執筆者とテーマと提出大学を紹介することにしたい。(※印は英国の大学)

なお提出大学の図書館に連絡すれば、マイクロフィルムの形で比較的容易に費用も送料を含め七ドル内外で入手出来る。

I　政治史（人物史）

ANTHONY, David Forsyth, The Administration of Hokkaido under Kuroda Kiyotaka 1870-1882. Yale University, 1950-51.

ARIMA, Tatsuo, The Failure of Freedom: an Intellectual Portrait of Taisho Japan. Harvard University, 1961.

SOVIAK, Eugene, Baba Tatsui: A Study of Intellectual Acculturation in the Early Meiji Period. University of Michigan, 1962.

※VAN STRAELEN, H. J. J. M., Yoshida Shoin, The Forerunner of the Meiji Restoration. University of Cambridge, 1949.

WALD, Royal J., The Young Officers Movement in Japan, 1925-1937; Ideology and Actions. University of California, Berkeley, 1949-50

BAILEY, Jackson Holbrook, Prince Saionji: a Study in Modern Japanese Political Leadership. Harvard University, 1958-59.

BROWN, Sidney D., Kido Takayoshi and the Meiji Restoration: A Political Biography, 1833-77. University of Wisconsin, 1952-53.

BUCK, James Harold, The Satsuma Rebellion of 1877: An Inquiry into Some of Its Military and Political Aspects. American University, 1959.

HAROOTUNIAN, Harry, The Samurai Class During the Early Years of the Meiji Period in Japan, 1868-1882. University of Michigan, 1957

※ROSE, S., The Functioning of Parliamentary Government in Japan, 1918-32, With Special Reference to the Control of Foreign Policy. University of Oxford, 1950-51.

SCOTT, John R., The Effect of the Cold War upon the Occupation of Japan. University of Illinois, 1951-52.

SOUKUP, James Rudolph, Labor and Politics in Postwar Japan: A Study of the Political Attitudes and Activities of Selected Japanese Labor Organizations. University of Michigan, 1957.

STEINER, Kurt, Local Government in Japan. Stanford University, 1955.

SUTTON, Joseph L., A Political Biography of Inukai Tsuyoshi. University of Michigan, 1954.

TETERS, Barbara Joan, The Conservative Opposition in Japanese Politics 1877-1894. University of Washington, 1955-56.

TIEDEMANN, Arthur E., The Hamaguchi Cabinet: First Phase July 1929-February 1930. A Study in Japanese Parliamentary Government. Columbia University, 1959.

TOTTEN, George O., Japanese Social Democracy: An Analysis of the Background, Leadership and Organized Support of the Social Democratic Movement in Pre-War Japan. Yale University, 1954.

TSUNEISHI, Warren Michio, The Japanese Emperor: A Study in Constitutional and Political Change. Yale University, 1958-59.

TURNER, John E., The Kenseikai (Constitutional Party) of Japan, 1913-27: A Study of Its History, Organization, and Domestic and Foreign Policies. University of Minnesota, 1950-51.

WARD, Robert E., Party Government in Japan: A Preliminary Survey of Its Development and Electoral Record, 1928-37. University of California, Berkeley, 1947-48.

HOLLAND, Harrison Melsher, The Minseito Party of Japan (1927-1940): Its Antecedents, Structure, and Operation. George

Washington University, 1957-58.

KIM, Young-chin, Disintegration of Political Power: An Analytical Study of the Genesis of the Meiji Restoration. University of Ponnsylvania, 1958.

LIN, Jung-shun, Popular Movements in Japan During the Taishō Era. University of Pennsylvania, 1960.

MC NELLY, Theodore H., Domestic and International Influences on Constitutional Revision in Japan, 1945-46, Columbia University, 1952.

MENDEL, Douglas H., Political Behavior in Post-Treaty Japan: A Survey of Constituents and Leaders in Two Selected Areas. University of Michigan, 1955.

PAK, Kun, Political Parties in Postwar Japan. University of Pennsylvania, 1958.

PETTY, Edward Avin, Directed Change and Cultural Adhesion: A Study of Functional Integration in the Police Administration of Japan. University of Southern California. 1961,

RANDOLPH, Elizabeth, The Policy and Tactics of the Communist Party in Postwar Japan. University of Virginia, 1955,

REID, Ralph W. E., Post-War Constitutional Reform in Japan, 1945-1947. Harvard University, 1948-49.

SILBERMAN, Bernard S., The Democracy Movement in Japan: 1916-1921; A History of a Social Movement. University of Michigan, 1956.

CHANG; Richard Taiwan, Fujita Tōko and Sakuma Shōzan: Bakumatsu Intellectuals and the West. University of Michigan, 1964.

CH' EN, Hsien-t'ing, The Japanese Government and the Creation of the Imperial Army, 1870-1873, Harvard University, 1962-63.

CODY, Cecil, Earl, A Study of the Career of Itagaki Taisuke (1837-1919): A Leader of the Democratic Movement in Meiji Japan. University of Washington, 1956.

GOODMAN, Grant K., The Dutch Impact on Japan (1640-1853). University of Michigan, 1954-55.

HACKETT, Roger F., Yamagata Aritomo: A Political Biography. Harvard University, 1954-55.

HAY, Stephen Northup, India's Prophet in East Asia: Tagore's Message of Pan-Asian Spiritual Revival and Its Reception in Japan and China, 1916-1929. Harvard University, 1656-57.

IWATA, Masakazu, Ōkubo Toshimichi: The Leading Protagonist on the Stage of the Restoration Drama. University of California, Los Angeles, 1960.

LEBRA, Joyce Chapman, Japan's First Modern Popular Statesman, A Study of the Political Career of Ōkuma Shigenobu (1838-

1922). Radcliffe College, 1957.

LEE. Edwin Borden, The Political Career of Ii Naosuke. Columbia University, 1960.

LIE. Tek-tjeng, Mutsu Munemitsu: 1844-1897. A Machiavellian Portrait. Harvard University, 1962.

LIEBERMAN, Mary Estes, Ōkawa Shumei and Japan's "Divine Mission". University of California, Berkeley, 1955-56.

MARTIN, Harris Inwood, The Early Life and Thought of Kita Ikki. Stanford University, 1959.

MITCHELL, Richard Hanks, The Korean Minority in Japan, 1910-1963. University of Wisconsin, 1963.

MIYAUCHI, Dixon Yoshihide, Yokoi Shonan: A Pre-Meiji Reformist. Harvard University, 1956-57.

NAKAYAMA, Shigeru, An Outline History of Japanese Astronomy: Western Impact vs. Chinese Background. Harvard University, 1959-60.

OLSON, Lawrence A. Jr., Hara Kei: A Political Biography. Harvard University, 1954-55.

PERRY, Walter Scott, Yoshino Sakuzo, 1873-1938: Exponent of Democratic Ideals in Japan. Stanford University, 1956.

AKITA, George, Development of Parliamentary Government in Meiji Japan. Harvard University, 1959.

BRAIBANTI, Ralph J. D., The Occupation of Japan: A Study in Organization and Administration. Syracuse University, 1948-49.

BRETT, Cecil Carter, The Government of Okayama Prefecture A Case Study of Local Autonomy in Japan. University of Michigan, 1956.

CAMACHO, Martin T., The Administration of the SCAP Labor Policy in Occupied Japan. Harvard University, 1953-54.

CLUBOK, Alfred B., Electoral Politics in Rural Japan: A Case Study of Okayama Prefecture. University of Michigan, 1962.

EDWARDS, Marie Alice, Political Activities of Japanese Post War Labor Unions. Northwestern University, 1956.

FARNSWORTH, Lee W., Factionalism in Recent Japanese Politics: Theory and Practice. Claremont Graduate School, 1962.

MILLER, Frank Owen, Minobe Tatsukichi: The Interpreter of Constitutionalism in Japan. University of California, Berkeley, 1961.

ロ　政治思想

MIWA, Ralph M., The Ideology of Imperialism and Its Implications for Constitutional Reforms in Japan. Johns Hopkins University, 1952-53.

NIYEKAWA, Agnes Mitsue, Factors Associated with Authori-

tarianism in Japan. New York University, 1960.

PITTAU, Father Joseph, Ideology of a New Nation: Authoritarianism and Constitutionalism, Japan 1869-1890. Harvard University, 1963.

QUO, Fang-quei, Japanese Liberalism: A Case Study in the Transplantation of Political Theory. Southern Illinois University, 1963.

BAKER, Alonzo L., The Influence of the Divine Emperor Doctrine upon Japan. University of Southern California, 1947-48.

Ⅲ　外交史

A　一般

SORIANO, Rafaelita V. H.. Japanese Occupation of the Philippines with Special Reference to Japanese Propaganda, 1941-45. University of Michigan, 1947-48.

VATCHER, William H. Jr., Combat Propaganda Against the Japanese in the Central Pacific. Stanford University, 1949-50.

HARUKI, Takeshi, The Tripartite Pact and Japanese Foreign Policy. Princeton University, 1956-57.

KIM, Chonghan. Konoye Fumimaro and Japanese Foreign Policy: 1937-1941 Indiana University, 1956.

KIM, Chong-ik, Japan in Korea (1905-10): The Techniques of Political Power. Stanford University, 1959.

LANGDON, Frank C., The Japanese Policy of Expansion in China, 1917-28. University of California, Berkeley, 1952-53.

OKAJIMA, Eiichi, The Japanese Peace Treaty and Its Implications for Japan's Post-War Foreign Policy. New York University, 1956.

MAYO, Marlene June, The Iwakura Embassy and the Unequal Treaties, 1871-1873. Columbia University, 1961.

OHASHI, Marshall Masashi, Japan's Southward Movement as Seen Through Japanese, Eyes. New York University, 1959.

OLIVER, John B., Japan's Role in the Origin of the London Naval Treaty of 1930: A Study in Diplomatic History. Duke University, 1954.

ATKINS, Emily H., General Charles Legendre and the Japanese Expedition to Formosa, 1874. University of Florida, 1954.

GORDON, Leonard, Formosa as an International Prize in the Nineteenth Century. University of Michigan, 1960-61.

HARVIN, Harry L. Jr., The Far East in the Peace Conference of 1919. Duke University, 1956-57.

KUBLIN, Hyman, The Bonin Islands, 1543-1875 Harvard University, 1947-1948.

MAYER-OAKES, Thomas F., Prince Saionji and the London Naval Conference, Being Part of Volume One of the Memoires

of Harada Kumao. Entitled: "Prince Saionji and the Political Situation": Translated into English with Annotations. University of Chicago, 1955.

B　日中関係

OPPENHEIMER, Ernest J., A Comparative Study of Selected World Opinion About the Sino-Japanese Conflict, 1931-32. University of Chicago, 1948.

CROWLEY, James Buckley, Japan's China Policy, 1931-38: A Study of the Role of the Military in the Determination of Foreign Policy. University of Michigan, 1960.

DOTSON, Lillian O., The Sino-Japanese War of 1894-1895. Yale University, 1950-51.

LIU, Tze-chien, Sino-Japanese Diplomacy During the Appeasement Period, 1933-1937. University of Pittsburgh, 1949-50.

RAMSDELL, Daniel Bailey, Japan's China Policy, 1929-1931 A Fateful Failure. University of Wisconsin, 1961.

YIM, Kwanha, Japanese Policy Toward China During World War I. Fletcher School of Law and Diplomacy, 1963.

C　日鮮関係

DONG, Chon, Japanese Annexation of Korea: A Study of Korean-Japanese Relations to 1910. University of Colorado, 1955.

KIM, Han Kyo. The Demise of the Kingdom of Korea: 1882-1910. University of Chicago, 1962-63.

REW, Joung Y., A Study of the Government-General of Korea, With an Emphasis on the Period Between 1919 and 1931. The American University, 1962.

D　日米関係

ASADA, Sadao, Japan and the United States, 1915-25. Yale University, 1962.

BURNS, Roy Gene Jr., American-Japanese Relations, 1920-1925. University of Missouri, 1962.

ESTHUS, Raymond A., Diplomatic Relations Between the United States and Japan, 1905-1908. Duke University, 1956.

GRAA, Frederick A., The Open Door Policy of the United States: A Fundamental Cause of War Between the United States and Japan. St. John's University, 1947-48.

GRIGG, Richard J., Japanese-American Relations, 1931-37. Georgetown University, 1949-50.

HALE, Robert M., The United States and Japanese Immigration. University of Chicago, 1945.

HERZOG, James Henry, The Role of the United States Navy in the Evolution and Execution of American Foreign Policy Relative to Japan, 1936-41. Brown University, 1963.

IRIYE, Akira, American Diplomacy and Sino-Japanese Relations, 1926-1931. Harvard University, 1960-61.

ISHII, John D., Japanese-American Diplomatic Relations, 1919-1929. Georgetown University, 1949-50.

SULLIVAN, C. S. J. Sister Maria Regina, United States-Japanese Relations and Public Opinion 1945-1955. St. John's University, 1958-59.

KACHI, Teruko Okada, The Treaty of 1911 and the Immigration and Alien Land Law Issue Between the United States and Japan, 1911-1913. University of Chicago, 1957.

KAWAHARA, Hattie M., Diplomatic Relations Between the United States and Japan from 1931 to 1941. University of Minnesota, 1948-49.

KUBEK, Anthony, Japanese-American Relations, 1937-1945. Georgetown University, 1956.

LENG, Shao-chuan, United States-Japanese Negotiations in 1941. University of Pennsylvania, 1949-50.

MERRILL, John E., American Official Reactions to the Domestic Policies of Japan in Korea, 1905-1910. Stanford University, 1954.

MORE, Lois Alma, American Diplomacy in Japan 1853-1869. From Advantage Gained to Advantage Lost. Columbia University, 1963.

PRESCOTT, Francis C., The Lansing-Ishii Agreement. Yale University, 1948-49.

PACKARD, George Randolph III, Japan's Reaction to the American Alliance 1960: A Study of Japan's Political Processes. Fletcher School of Law and Diplomacy, 1962-63.

E　日英関係

※MC MASTER, J., British Trade and Traders in Japan, 1859-69. University of London, 1962.

※NISH, I. H., The Diplomacy of the Anglo-Japanese Alliance, 1902-1907. University of London, 1962.

PERRY, John C., Great Britain and the Imperial Japanese Navy, 1858-1905. Harvard University, 1962.

※TAI, E-C, British Opinion of the Sino-Japanese War, 1937-1941. University of London, 1952.

WHITNEY, Henry N., British Foreign Policy and the Russo-Japanese War. University of Pennsylvania, 1948-49.

F　日独関係

IKLE, Frank W., German-Japanese Relations, 1936-40. University of California, Berkeley, 1953.

MENZEL, Johanna Margarete, German-Japanese Relations During the Second World War. University of Chicago, 1957

ROSEN, Oscar, German-Japanese Relations 1894-1902: A Study of European Imperialism in the Far East. University of Wisconsin, 1956.

G　日露関係

BERTON, Peter A., The Secret Russo-Japanese Alliance of 1916. Columbia University, 1956.

CLAYBERG, Anna A., Soviet Policy Toward Japan, 1923-1941. University of California, Berkeley, 1962.

DURKEE, Travers E., The Communist International and Japan, 1919-1932. Stanford University, 1954.

LENSEN, George A., Russia's Japan Expedition of 1852 to 1855. Columbia University, 1950-51.

H　日本と東南アジアその他の地域の関係

IRIKURA, James Kensuke, Trade and Diplomacy Between the Philippines and Japan, 1585-1623. Yale University, 1957.

POPPE, Janus, Political Development in the Netherlands East Indies During and Immediately after the Japanese Occupation. Georgetown University, 1947-48.

HYER, Paul V., Japan and the Lamaist World: Part I, Japanese Relations with Tibet. University of California, Berkeley, 1960-61.

(1)　日本においても、日本学士院、東京大学史料編纂所が中心となつて諸外国に在る日本関係史料を蒐集整理しようとする試みがなされている。その動向については沼田次郎「在外未刊日本関係資料蒐集事業の沿革について」日本歴史一八六号(昭和三十八年十一月)、「在外未刊行史料の複本作成事業」日本学士院紀要一九巻一号(昭和三六年三月)等参照。

(2)　プライベイト・ペイパーを利用したアメリカ側の最近の研究に Armin Rappaport, "Henry L. Stimson and Japan, 1931-33" 1963. Chicago

B. F. Bears, "Vain Endeavour — R. Lansing's Policy toward Japan," 1961, New York, Dorothy Borg, "United States and the Far Eastern Crisis of 1933-1938" 1964, Cambridge 等がある。

六

以上述べて来たように今日のアメリカの日本研究は最早「外人に日本が解つてたまるか」といつた態度で軽視することが出来ないのは勿論、これを積極的に日本側が逆に取り入れていい段階に来ているといつても過言ではなかろう。それは外国人が日本人研究者の研究と違つたアプローチで日本を分析しようとし、ある点では大きな成功を収めている点、日本の原資料を直接読んで自分達の新しい解釈を打出そうとしている点、等学ぶべきであろう。ただ欠点もないわけではない。日本の専攻する特殊テーマを追うあまり、日本全体の動きの中でそれが占める位置付けを見落して、テーマ自体を異常に浮び上らせてしまつたり、資料批判をせずに一個人の伝記等に依

存し過ぎたあまり、矛盾を生じたり、多くない例ではあるが、日本語の読み違いによつて、意味を取り違えて自己流に解釈をほどこしてしまうといつた点が散見される。しかしアメリカの指導教授の層の厚さ、懇切な指導、研究者の努力は研究施設の整備、日本人研究者との交流、政府、大学の多額の補助と相俟つてこのような欠点が克服出来る日も遠くはあるまい。近年日本国際政治学会太平洋戦争原因研究部によつて「太平洋戦争への道」（全七巻、別巻一）の完成を見たが、日米両国の研究者によつて両国の資料の駆使、討論を重ねることによつて尨大な「日米関係史」の完成を夢みてもよい時期に至つたようである。

付記　本稿は昭和四〇年四月二六日一橋講堂において行われた「日本国際政治学会春季大会」における報告を加筆訂正したものである。本稿の作成に当つて資料、談話等の面において数多くの方の協力を得た。左にその名を誌して感謝の意を表したいと思う。

一橋大学細谷千博教授、東京大学金井円氏、ハーヴァード大学入江昭講師、コロムビア大学ジェームス・モーリー教授、岡本俊平氏、フランク・ボールドウィン氏、インディアナ大学レオン・ゾルブラッド氏、ミシガン大学フリッツ・レベンバッハ氏、ワシントン大学ジョン・マキ教授